

# 01-31 ファンイベント：谷口氏ファンイベント企画会議

---

## アクションアイテム

- @[担当者] - 谷口氏の登壇時の動線を確認する。
- @[担当者] - 事前に募集した質問を印刷して用意する。
- @[担当者不明] - ドリンクをホットとアイス両方で提供可能か相談する。
- @[司会者] - 来場者への感謝や写真集購入への御礼を含む、冒頭の台本を作成する。
- @[司会者] - イベント開始時に、トークショー中の撮影はご遠慮いただき、別途撮影タイムがある旨をアナウンスする。
- @[担当者不明] - サインペンを20〜30本程度用意する。
- @[担当者] - キットバッテリー案件の詳細が届き次第、関係者に送付する。
- @[不明] - 谷口さんの最新プロフィールデータを送付する。
- @[不明] - ブロマイドと写真ステッカーを発注する。

## 主要な決定事項

- トークショーは、谷口氏が開会の挨拶と着席の案内をしてから自然な形で開始する方針に決定。 - 観客との一体感を醸成し、スムーズに進行させるため。
- 質疑応答の質問は、事前にSNSで募集する方式を採用する。 - 当日は時間的余裕がない可能性があり、質問数が少なくなるリスクを避けるため。
- 参加者全員にプレゼントを配布する方針を決定。 - 全員への配慮を示し、イベントの満足度を高めるため。
- イラストステッカーの枚数を120枚から25枚に修正する。 - 後ほど修正作業を行う。
- デコチェキは販売物リストから除外し、質問コーナーの景品とする。 - 参加者からの喜びが期待できるため。
- コラボドリンクの名称を「バレンタインチュキラテ」とする。
- ドリンクの正式名称を「バレンタインに会えるなんてうれちいらテ」とする。
- ドリンクのベースをココアにする。
- ドリンクはホットとアイスの両方から選択可能とする方向で検討を進める。
- ドリンクの価格を、分かりやすさを重視して1,000円に設定する。
- ファンイベントの基本姿勢として、ファンが喜ぶことを最優先する。
- トークショー中の撮影は禁止とし、写真撮影タイムを別途設ける。
- 写真撮影タイムに撮影された写真については、SNSへの投稿を許可する。

- 写真撮影タイムは、トークショーと質疑応答が終わった後、サイン会の前に実施する。
- SNS投稿時のハッシュタグは「#谷口」など、シンプルで覚えやすいものにする。谷口氏本人から「このハッシュタグを付けて投稿してくれると私も見れて嬉しいです」とアナウンスする。
- サイン会の場所は、会場入って左側にあるカウンターを使用する。
- 受付で配布する番号カードの裏面に、サインに入れてほしい名前を参加者自身に記入してもらう。谷口氏はそれを見てサインを記入する。
- サイン用のペンとして、ボールペンではなくサインペンを用意する。
- サインはヤングジャンプ本誌にのみ行うため、本誌の持参は必須とする。
- もし本誌を忘れた参加者がいた場合は、特別対応として本人の手にサインをする。
- ガチャの購入は1回につき5回までとする。ループ（並び直し）は許可する。
- ドリンクの販売はサイン会が終了するまでとする。詳細は最終的に調整する。
- VIP会員向けの特典は本日夜に告知する。

## 詳細議事録

### [00:00-01:19] 販促用ステッカーの配布とサイズに関する検討

- 現在120枚あるステッカーは、イベントで全て配布する予定。
- ECサイトでの販売（200～380円で想定）も可能だが、イベントで全て配布することに懸念はないとの見解が示された。
- 参加者からは、提示されたステッカーの中で、特定のサイズの方が使い勝手が良く、好ましいとの意見が出た。

### [01:19-02:11] トークショーの進行形式に関する初期検討

- トークショーで決定すべき主要な項目として、トーク内容と開始時の「呼び込み」の方法が挙げられた。
- 過去の事例として、川野氏のイベントでは「旦那です」といったセリフ付きの呼び込みがあったことが共有された。
- 登壇の具体的な流れについて、以下の選択肢が検討された。
  - 谷口氏が着席後、最初から「はいどうぞ」と自然に開始する。
  - 戸川氏が冒頭で話し、谷口氏に繋いでからトークショーを開始する。

### [02:12-03:16] 登壇時の演出と開始方法の具体化

- 登壇時の演出として、ステージ後方から登場する案が検討された。
- 観客がスタンディングで並んでいる中を、谷口氏が入場し、拍手で迎えられるという具体的なイメージが共有された。

- トークショーの開始方法について、以下の流れが有力な案として挙げた。
  - 谷口氏が「皆さんお集まりいただきましてありがとうございました」と挨拶する。
  - その後、「これからトークショーを始めます」と宣言し、着席を促して自然に開始する。
- Key Decision: トークショーは、谷口氏が開会の挨拶と着席の案内をしてから自然な形で開始する方針に決定。 - 観客との一体感を醸成し、スムーズに進行させるため。

#### [03:19-04:35] トークショー開始までの詳細な段取りと機材の確認

- トークショー開始の具体的な流れが決定された。
  - a. 戸川氏が「本日はありがとうございます。マネージャーの…」と挨拶。
  - b. 戸川氏が「それではトークショーを開催したいと思います。拍手でお迎えください」と呼び込みを行う。
  - c. 谷口氏が拍手の中、登壇する。
  - d. 戸川氏も登壇し、谷口氏の隣に立つ。
- 登壇後の進行について、以下の点が確認された。
  - トーク用のモニターと台が用意される予定。
  - 谷口氏は、用意された台に商品を置き、それを見せながら話す形式も可能。
- Action Item: @[担当者] - 谷口氏の登壇時の動線を確認する。

#### [04:35-05:48] トークショーの時間配分と質疑応答の実施方法

- トークショーの時間は、前半のトークパートを最低20分確保し、30分～40分に延長しても問題ないことが確認された。
- 後半に質疑応答の時間を設けることが決定された。
- 質疑応答の質問募集方法について、以下の選択肢が検討された。
  - 選択肢1: 当日、参加者に質問を書いてもらい抽選する。
  - 選択肢2: 事前にSNS等で質問を募集する。
- Key Decision: 質疑応答の質問は、事前にSNSで募集する方式を採用する。 - 当日は時間的余裕がない可能性があり、質問数が少なくなるリスクを避けるため。
- Action Item: @[担当者] - 事前に募集した質問を印刷して用意する。
- 備品として、抽選用のボックスが利用可能か確認する必要がある（お笑いライブ等で使用される備品が存在する可能性）。

#### [05:49-07:20] 質疑応答と連動したプレゼント企画の検討

- 質疑応答で質問が採用された参加者にプレゼントを渡す企画が提案された。
  - 例として「バレンタインお菓子セット」などが検討されている。
- 企画の運用方法について、以下の流れが検討された。
  - a. 事前に募集した質問と応募者のニックネームを読み上げる。
  - b. 会場でその応募者がいるかを確認する。
  - c. 応募者がその場にいたら、質問内容を読み、プレゼントを渡す。
- 懸念点として、事前質問をした人が当日必ず来場するとは限らない点が挙げられたが、ニックネームで本人確認をすることで対応可能と判断された。
- プレゼントの個数について、当初3個程度が想定されたが、より多くの参加者に渡せるよう個数を増やす方向で検討することになった。

#### [07:20-08:22] 参加者全員へのプレゼント配布計画

- 参加者数を20人と仮定し、より多くの人に喜んでもらうためのプレゼント配布計画が立案された。
- Key Decision: 参加者全員にプレゼントを配布する方針を決定。 - 全員への配慮を示し、イベントの満足度を高めるため。
  - 質疑応答で質問が採用された10名には「豪華な」プレゼントを渡す。
  - その他の参加者全員にも「ノーマルな」プレゼントを配布する。
  - 谷口氏の負担にならない範囲で、プレゼント内容に差をつけることが確認された。

#### [08:22-09:36] プレゼント内容の検討とターゲット層の再確認

- プレゼントの内容を決定するため、参加者の属性が確認された。
- ターゲット層は「男性」であり、かつ「谷口氏の熱心なファン」である可能性が非常に高いと分析された。
- イベントへの参加者は熱量が高いことが想定される。
- 最新の参加者数は22人であることが確認された。

#### [09:38-11:26] プレゼント候補の具体的な検討（ステッカー、デコチョコ、チェキ）

- プレゼントの具体的な候補について議論された。
  - 景品候補1: ステッカー（風景付きの柄）
  - 景品候補2: デコチョコ（ステッカーと同じ柄で3種類）
  - 景品候補3: バレンタインデコチェキ

- 谷口氏が事前に撮影し、自宅のプリンターで印刷してデコレーションしたもの。
- チェキはトークショー前に準備しておくことが確認された。
- これらの候補の中から、プレゼントを構成することが検討された。既存の景品（例：アクリルスタンド、写真ステッカー）の数量を調整して、チェキなどを追加する案が出た。

#### [11:26-12:06] プレゼント景品の構成と数量の調整

- プレゼント景品について、既存の景品の数量を調整してチェキを追加する案に関して、どの景品を減らしても問題ないことが確認された。
- アクリルスタンドは今後も販売する予定。
- 限定品であるため、ステッカーの枚数を減らすことが提案された。
- Key Decision: イラストステッカーの枚数を120枚から25枚に修正する。 - 後ほど修正作業を行う。

#### [12:08-13:21] バレンタイン企画のデコチェキプレゼント案が検討され、質問コーナーの景品とすることが決定しました。

- 当初、谷口氏のソロショットでデコチェキを用意する案が検討されました。
  - 谷口氏が自撮りまたは撮影した写真を使用する想定でした。
- デコチェキを、イベントの質問コーナーで質問が読み上げられた人へのプレゼントとすることが提案されました。
- Key Decision: デコチェキは販売物リストから除外し、質問コーナーの景品とする。 - 参加者からの喜びが期待できるため。

#### [13:21-13:53] コラボドリンクのメニュー構成について議論され、1種類のタイアップメニューと通常ドリンクを併売する方針が確認されました。

- コラボドリンクは1種類に絞られる予定です。
- 谷口氏のタイアップメニューを1つ作成し、それとは別に通常のドリンクメニューも販売する形式が提案されました。
- Key Decision: コラボドリンクの名称を「バレンタインチュキラテ」とする。

#### [13:53-14:57] コラボドリンクの名称が「バレンタインチュキラテ」から「バレンタインに会えるなんてうれちいらテ」へと変更されました。

- 「チキ」という言葉が別のポーカー関連の用語（チキメロディー）を連想させる可能性があるという指摘がありました。
- Key Decision: ドリンクの正式名称を「バレンタインに会えるなんてうれちいらテ」とする。

- ドリンクの具体的な内容については、特に希望はなく、自由に検討されることになりました。

**[14:58-16:08] コラボドリンクのベースがココアに決定し、トッピングについても確認されました。**

- 谷口氏がコーヒー（エスプレッソ）を飲めないため、ラテではなく別のドリンクが検討されました。
- 以前の希望として、チョコレートゼリー、チョコ、生クリーム、マシュマロ、ベリーソースといったトッピングが挙げられていたことが確認されました。
- Key Decision: ドリンクのベースをココアにする。
- ドリンクをホットで提供するかアイスで提供するかについては、未決定です。

**[16:08-17:37] ドリンクの提供形態と価格が決定し、当日の開場からトークショー開始までの流れが確認されました。**

- 外気が寒い可能性を考慮しつつ、スリーブを使用すればアイスでの提供も可能かどうか話し合われました。
- Key Decision: ドリンクはホットとアイスの両方から選択可能とする方向で検討を進める。
  - Action Item: @[担当者不明] - ドリンクをホットとアイス両方で提供可能か相談する。
- Key Decision: ドリンクの価格を、分かりやすさを重視して1,000円に設定する。
- イベント当日の流れは以下の通りです。
  - 15:00に開場し、参加者が順次入場します。
  - トークショー開始までの15分間、参加者はガチャやコラボドリンクの購入ができます。
  - 会場のモニターでは、アネルさんの4K動画が上映されます。

**[17:37-18:52] トークショー冒頭の司会進行と、谷口氏の登場後の流れについて確認されました。**

- 15:15になったら司会者がトークショーを開始し、4K動画をオフにします。
- 司会者が来場者への感謝を述べ、谷口氏を案内します。
  - Action Item: @[司会者] - 来場者への感謝や写真集購入への御礼を含む、冒頭の台本を作成する。
- 谷口氏が登場後、トークが開始されます。



- 「初めて会う方」を想定したコミュニケーションを取ることが提案されました。
- アイドルのように、まず自己紹介と感謝を伝える流れが確認されました。

**[18:52-20:31] トークショーのコンテンツとして、自己紹介と写真集に関するトークを行うことが決定しました。**

- 初参加のファンも想定されるため、自己紹介の時間を設けることが確認されました。
- 自己紹介の後、「約10年間グラビア活動をしていなかったが、なぜ今回やることになったのか」という経緯について話します。
- 画面に写真を表示しながら、以下のテーマでトークを展開します。
  - お気に入りのショット
  - 自身が選ぶ「私的ベスト3」
  - 撮影で「体勢が辛かったベスト3」など、様々な切り口でのベスト3企画

**[20:31-21:42] トークショーの進行と過去のイベント経験について情報が共有されました。**

- ベスト3企画などのトークで約20分程度の時間が見込まれます。
- 会場全体に意見を求めると「全部良い」という反応になりがちのため、質問は特定の人に絞って行う方が良いと確認されました。
- 谷口氏は過去に撮影会や生誕祭、1日店長イベントなどを自身で企画・運営した経験があることが共有されました。
- 一方で、今回の形式のようなファンイベントは初めての経験であることが確認されました。
- 比較対象として、河野氏が自身の生い立ちをスライドで紹介したイベント事例が挙げられました。

**[21:43-22:58] 質疑応答の形式について、事前募集を基本としつつ当日の質問も受け付ける可能性が議論されました。**

- 過去のイベントでは、質疑応答コーナーが長くなる傾向があったことが共有されました。
- 基本的には事前に質問を募集する形式ですが、当日どうしても質問したい人がいれば、その場で答えることも検討されました。
- 谷口氏のファンの特性について、「SNSを見る限り、非常に愛が強く、良い人たちが多い」という印象が共有され、イベントが荒れる可能性は低いと見られています。

**[22:58-23:36] バレンタインにちなんだパフォーマンスの可能性と、ファンイベントの基本姿勢について話し合われました。**

- 谷口氏が「バレンタイン・キッス」を踊ることを検討したが、写真集イベントであるため見送った、というエピソードが共有されました。
- 過去に菅野氏が歌の経験がないにも関わらず、ファンイベントでドリカムの曲を歌った事例が紹介されました。
- Key Decision: ファンイベントの基本姿勢として、ファンが喜ぶことを最優先する。

**[23:40-24:43] 写真撮影タイムの設置とSNSでの公開可否について決定されました。**

- トーク中の撮影は参加者の集中を妨げる可能性があるため、別途「写真撮影タイム」を設けることが提案されました。
- Key Decision: トークショー中の撮影は禁止とし、写真撮影タイムを別途設ける。
  - Action Item: @[司会者] - イベント開始時に、トークショー中の撮影はご遠慮いただき、別途撮影タイムがある旨をアナウンスする。
- Key Decision: 写真撮影タイムに撮影された写真については、SNSへの投稿を許可する。

**[24:44-26:21] 写真撮影タイムの具体的なタイミングとSNS投稿時のハッシュタグについて決定されました。**

- Key Decision: 写真撮影タイムは、トークショーと質疑応答が終わった後、サイン会の前に実施する。
  - 谷口氏は参加者の近くへ移動することも可能です。
- SNS投稿を促すため、ハッシュタグを指定することが提案されました。
  - Key Decision: SNS投稿時のハッシュタグは「#谷口」など、シンプルで覚えやすいものにする。谷口氏本人から「このハッシュタグを付けて投稿してくれると私も見れて嬉しいです」とアナウンスする。

**[26:22-28:10] 質疑応答から写真撮影タイム、トークショー終了までの具体的な流れが確定しました。**

- 質疑応答では5つほどの質問に答えます。
- 最後の質問への回答後、谷口氏が「皆さんありがとうございました。ここからは撮影タイムです」と宣言し、約3分間の撮影タイムが始まります。
- 撮影タイム終了後、谷口氏が締め挨拶を行い、トークショーは一旦終了となります。
  - 締めの挨拶では「この後はサイン会もあるので最後まで楽しみましょう」といった言葉を添えます。
- その後、サイン会の準備のため、谷口氏は一度退場（はける）します。



[28:11-29:52] **サイン会の運営方法と、参加者への名前記入に関する課題への対策が決定されました。**

- Key Decision: サイン会の場所は、会場入って左側にあるカウンターを使用する。
- サイン会は以下の手順で進行します。
  - a. 参加者は受付で配布された番号カードの順に整列する。
  - b. サイン対象のヤングジャンプ本誌またはデジタル版の購入画面を準備して待機する。
  - c. 司会者がサイン会の準備が整ったことをアナウンスし、谷口氏が再登場してサイン会を開始する。
- 参加者との会話時間は、ごく短いもの（一言二言）になる見込みです。
- 谷口氏が参加者の名前を聞き間違えるリスクを避けるため、以下の対策を講じることが決定されました。
  - Key Decision: 受付で配布する番号カードの裏面に、サインに入れてほしい名前を参加者自身に記入してもらう。谷口氏はそれを見てサインを記入する。
  - この方法を参加者に案内する必要があることが確認されました。

[29:52-30:57] **サイン会用の筆記具と、参加者に用意してもらう物品について最終確認されました。**

- Key Decision: サイン用のペンとして、ボールペンではなくサインペンを用意する。
  - Action Item: @[担当者不明] - サインペンを20〜30本程度用意する。
- 番号カードに名前を書いてもらうためのボールペンは、十分な数が用意できる見込みです。
- サイン会に際し、参加者に以下の3点を用意してもらうことを再度確認しました。
  - a. 裏面に書いてほしい名前を記入した番号カード
  - b. ヤングジャンプ本誌
  - c. デジタル版購入画面（デジタル版購入者のみ）
- これらの案内を、会場に掲示するための紙を作成することが提案されました。

[30:57-32:29] **サイン会参加に必要な物品の再確認と、本誌を忘れた場合の特別対応が決定されました。**

- Key Decision: サインはヤングジャンプ本誌にのみ行うため、本誌の持参は必須とする。
- サイン会参加に必要なものは以下の通りです。

- a. 受付で配布された番号カード（裏面にサインに入れてほしい名前/ニックネームを記入）
- b. ヤングジャンプ本誌
- c. YJフォトブック（デジタル版）の購入がわかる画面
- Key Decision: もし本誌を忘れた参加者がいた場合は、特別対応として本人の手にサインをする。
  - 事前に「忘れた場合は手に書くことになるので、忘れないでください」とアナウンスすることが決まりました。

**[32:30-33:38] サイン会開始までの最終的な段取りと、進行管理について確認されました。**

- 司会者は、参加者が整列している間に以下の3点を準備するようアナウンスします。
  - a. 配布された番号カード
  - b. ヤングジャンプ本誌
  - c. デジタル版購入画面
- 全員の準備が整ったら、司会者が谷口氏を呼び、サイン会がスタートします。
- 参加者一人ひとりとの会話時間は短く、「来てくれてありがとう、名前書くね、はいどうぞ」といった流れが想定されています。
- 過去のひな氏のイベントでは時間が長引いた例があり、時間管理は谷口氏に一任されることになりました。
- 問題行動をとる参加者がいた場合は、司会者が「剥がし役」として介入する可能性もありますが、その必要はないだろうと見られています。
- 谷口氏専用の控室がないため、進行は柔軟に対応する方針です。

**[33:38-34:54] 2月13日と14日のイベント運営詳細の検討**

- 13日のサイン会は、サインが終わり次第、参加者にはそのまま帰宅してもらう形式とする。
- 13日のチェキ撮影会では、参加者が何枚撮影するか不透明であり、1人で50枚や100枚購入するケースも想定される。
- 14日のイベントで実施するガチャは、混乱を避けるため購入制限を設ける。
  - Key Decision: ガチャの購入は1回につき5回までとする。ループ（並び直し）は許可する。
- ガチャの対応には専任のスタッフを配置する必要があるか検討中である。

#### [34:54-36:03] サイン会終了後のオペレーションに関する確認

- サイン会で使用する刺繍ブロマイドを入れるための袋は用意されている。
- 参加者はサインを受け取った後、順次解散となる。
- ドリンクの販売時間について検討が必要。
  - Key Decision: ドリンクの販売はサイン会が終了するまでとする。詳細は最終的に調整する。
- イベント終了後の撤収は2時半を目標とし、その後、店舗側との会計を行う予定。

#### [36:03-36:42] イベントの収益性と今後の展望について

- 今回の会場費は75,000円と高額だが、回収は可能との見通し。
  - 20人の参加で約40,000円の売上が見込め、総売上が100万円に達すれば十分な利益が出ると予測されている。
- 今回は初回開催のため、実施結果を踏まえて、より適切な会場を検討していく。
- 将来的なステップとして、ファンを増やし、より大きな会場でイベントを開催することが理想である。

#### [36:42-37:55] ハナさんのイベントにおけるファン層の特異性

- ハナさんのイベントでは、参加者約900人のうち、男性の数は目視で10人から20人程度であり、ほぼ全員が女性ファンだった。
- この現象は「あやひろ」の影響が大きいと推測されており、元々女性ファンが多かったが、その影響でさらに増加したと考えられる。
- ファンの言動（例：「本田さんの腕や手がどうたら」）からも、「あやひろ」からの影響がうかがえる。

#### [37:55-38:29] 成海さんの女性ファン獲得の可能性

- ハナさんのイベントの男性ファン比率は約1〜2%と非常に低い。
- 成海さんは、きっかけがあれば女性ファンが増える可能性があると考えられている。
- 「ガールズラボ系」のような企画が、女性ファン増加のきっかけになるかもしれない。

#### [38:29-39:13] オーディション案件と「ガールズラボ系」企画への関心

- カトシさんの事例から、熱心なファンがつく可能性があるため、「ガールズラボ系」企画は検討の価値がある。
- 過去にリリちゃんが受けたオーディションは、運営が特殊で、結果的に不合格だった。
- 別役での参加可能性が示唆されたが、その役柄によるところが大きい。

#### [39:13-40:19] 「街中華カレーの女」オーディションの状況

- 推薦があったのは、良い評価を得ている証拠だと考えられる。
- オーディションは、関係者のみに公開され、55人の応募者の中から2人が選ばれる。
- 昨年の同企画では、谷口さんと島田さんが選ばれており、注目度が高い。
- 選ばれるのは非常に難しいが、55人の候補者の中に入ること自体に価値がある。

#### [40:19-41:32] 「街中華」をテーマにした番組オーディションへの準備

- 番組の内容は不明だが、オーディションに挑戦すること自体が良い経験になると考えられる。
- オーディションで話す内容として、「一人で入りづらい個人経営の美味しい店を見つけることで、その日一日が良い日になったと感じる人を増やしたい」という趣旨のアイデアが提案された。

#### [41:36-44:07] 「町中華」と「ガチ中華」の定義と特徴に関する議論

- 街中華好きの人は一定数存在する。千駄ヶ谷の「紫金飯店」は、藤井聡太棋士が利用したことで有名。
- 「町中華」の対義語として「ガチ中華」が存在する。
  - **町中華**: 日本人向けに味がカスタマイズされた中華料理。商店街などで夫婦が経営しているような、昔ながらの個人店を指すことが多い。円卓などはない。  
例：日高屋（ただし、これはラーメンチェーンに分類される）。
  - **ガチ中華**: 中国の人が作る、本場の中国料理。
- 話者の一人は、日本風にアレンジされていない「ガチ中華」を圧倒的に好んでいる。
- オーディションを受けるにあたり、これから行くであろう店は「町中華」であり、その定義を正しく理解しておくべきだと指摘された。

#### [44:09-45:16] 若菜さんが「町中華」のイメージに合う理由

- 若菜さんは「町中華」の雰囲気合いそうだと評されている。
- 理由として、雑誌のインタビューで「大衆演劇が好き」と語っていたことが挙げられ、昭和レトロな「町中華」のテイストと親和性が高いと考えられている。
- 一方で、谷口さんが「町中華」の番組をやっているイメージはあまりない、との意見も出た。

#### [45:16-46:22] ロケ番組への挑戦の意義と今後の活動への期待

- たとえ役柄としてでも、ロケ番組に出演することは非常に良い経験になる。

- ロケの経験は「ロケをやったことがある」という実績になり、次の仕事に繋がるため、キャリアにとって強みとなる。
- 食レポの勉強にもなり、成長の機会となるため、ぜひ頑張ってもらいたいと期待されている。
- 「キットバッター」の件については、詳細が届き次第、連絡する予定。
  - Action Item: @[担当者] - キットバッター案件の詳細が届き次第、関係者に送付する。

#### [46:25-47:56] 舞台稽古と台本の理解に関する課題

- 8日のレッスンは休みになったことについて、疑問が呈されている。
- 舞台の台本について、話が分かりにくいという意見が出ている。
- 主人公に「私ついていきます。一緒に正しい場所に戻しましょう」と語りかけるシーンがあり、これが続編の伏線ではないかと解釈されている。
- 一方で、内容の分かりにくさや拘束時間との兼ね合いから、続編への出演には消極的な意見もある。
- 現場の雰囲気は、4回目ということもあり和気あいあいとしていた。

#### [47:57-49:43] 舞台における役柄と歌唱シーンの謎

- 役柄は図書館に引きこもっている役で、他の登場人物との関わりが薄く、一人の女の子としか話さないため、ストーリーを完全に理解していなくても演じる上での支障は少ない。
- 図書館員の役であるにもかかわらず、歌唱シーン（おそらく全校集会での校歌斉唱のような場面）があることに疑問を感じている。
- 8日の「サミュージック」での予定については、返事を書き次第、行ってもらうことになっている。
- 現場には、けいなちゃんも一緒に、スターダストの事務所には行ったことがあるが、上宿は初めてとのこと。
- 上宿は四ツ谷三丁目から近く、アクセスが良い。

#### [49:44-50:56] サンミュージック関連イベントの確認と移動ルート

- 四ツ谷三丁目から次の目的地である箕輪への移動について、南北線が利用可能であることが確認された。箕輪には日比谷線と都電荒川線も通っている。
- 過去のサンミュージックのイベント（けんあさんが一人で実施）や、料金設定（7500円）について簡単な確認が行われた。SNSでの投稿についても言及があった。

#### [50:56-52:03] イベント告知の最終確認が完了しました。

- 本日の会議の主要目的であったイベントに関する決定事項が確定しました。

- VIP会員向けの特典告知について、EGG BINEの後に他の特典と合わせて告知する案が検討され、本日夜に告知することが決定されました。

- Key Decision: VIP会員向けの特典は本日夜に告知する。

- 修正版の告知資料が共有され、それを使用して告知が進められます。

[52:05-52:48] **13日開催のラジオイベントチケットが完売したことが報告されました。**

- 13日に予定されているラジオイベントのチケットは、既に売り切れているとのこと。
- イベントの成功は、将来の活動に繋がる重要なステップであると認識されています。

[52:48-53:16] **先週の出演が次回の撮影に繋がったことが共有されました。**

- 先週の出演が好評で、再度撮影に繋がったことが報告されました。

[53:20-53:51] **松下さんの宣伝活動への貢献について言及されました。**

- べろぼうの松下さんが、様々な場所で積極的に宣伝活動を行っており、非常に感謝しているとの話がありました。

[53:51-54:17] **有吉さんへの出演交渉に関する伝言が確認されました。**

- 関野さんを通じて、森さんが有吉さんに対して出演を打診する機会があれば誘ってほしい、とお母様が伝えていた件について話がありました。

[54:23-55:00] **今後の出演希望と舞台稽古の様子について話がありました。**

- Netflixの作品など、将来的に大きなメディアへの出演を目指したいという意向が示されました。
- 現在出演中の舞台について、昨日の稽古では、あるシーンが終わった後も帰宅を許されないなど、厳しい状況ではなかったため良かったとの感想が述べられました。

[55:00-56:05] **出演中の舞台における役柄とストーリーの難しさについて語られました。**

- 出演シーンでは台詞がなく、イギリスのワルドンの頂上で「キャー！」と叫んで消えるだけの役柄であることが明かされました。
- このような台詞のないシーンが3点ほどあるとのこと。
- 作品のストーリーが難解で、シリーズの過去作を見ていないと理解が難しい可能性がある点が指摘されました。

[56:05-56:36] **谷口さんのプロフィールをクレイさんに提案する計画が立てられました。**

- 谷口さんの最新のプロフィールデータをクレイさんに渡すことになりました。
- Action Item: @[不明] - 谷口さんの最新プロフィールデータを送付する。



- これは、学園祭などに出演できるタレントを探している案件に対して、パンフレット掲載や出演の提案を行うためです。

**[56:37-57:23] 今後の活動計画の確認（豆まき、グッズ発注）**

- 浜辺美波さんの豆まきイベントが話題に上がり、豆まきイベントへの出演に意欲が示された。
- 今後のグッズとして、ブロマイドと写真ステッカーを発注することが確認された。
  - Action Item: @[不明] - ブロマイドと写真ステッカーを発注する。
- また、グッズ用のチェキ撮影も必要であることが確認された。